



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

東京都 北区立浮間中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名：JOCオリンピック教室
- 主催：公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援：スポーツ庁
- 協力：公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象：中学2年生
- 講師：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間：2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数：80校程度
- 実施方法：クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、チームワーク、フェアプレー、身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき  
「オリンピックの価値」等を  
伝える



個人またはグループワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック** : 濱口 典子 先生 (バスケットボール)  
【出場オリンピック/アトランタ1996大会、アテネ2004大会】
- **期 日** : 2022年11月17日(木)
- **ク ラ ス** : 2年1組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・バスケットボール競技で、アトランタ1996とアテネ2004大会の2大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意/尊重」と説明。運動の時間は、バスケットボールを使用した競走等を行う中で、オリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしい。準備体操は1人1球ボールを持ち、手の平でボールを動かし、ボールの感覚を掴む練習やシュート方法について、先生の見本を見ながら実践してみる。

○準備運動～主運動等



・準備運動は、「体を使ったじゃんけん」を実施。その後、準備体操で行ったシュート方法を意識しながら、ゴール下で各自シュート練習を行う。  
 ・主運動は、「パス&シュート競争」を実施(3回)。各班ボールを1つ持ち、決められた順番通りにパスをしながらゴール下まで走る。ボールを落としたらスタート位置に戻る。シュートは外してもリバウンドを上手くすれば何度でもシュートを打てる。シュートが成功したら、マーカーを持ち帰り、獲得したマーカー数で得点を競う。2回目と3回目はマーカーの色によって獲得点数を変え、総合点数を競うルールに変更。



・運動の時間を振り返り、皆が積極的に参加できて良かった。3回目の実施前に、皆に仲間の良いところを1つずつ言い合ってもらった。そのことでさらに班の結束力や信頼感が増し、スピード感のあるパス回しができたと思う。座学の時間は、運動の時間で感じたオリンピックバリューの3つの価値を、班で工夫した点に結び付けて考えてほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 濱口 典子 先生 (バスケットボール)  
【出場オリンピック/アトランタ1996大会、アテネ2004大会】
- **期 日** : 2022年11月17日(木)
- **ク ラ ス** : 2年1組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンは、オリンピックは多くの人に関わり友情を深め、卓越した技術を身に付けることができるスポーツの祭典であり、世界平和にもつながると提唱した。オリンピックシンボルは、背景の白を合わせた6色で世界中の国旗が描け、5大陸を表している。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「お互いを理解する」、リスペクト：「フェアプレー」だと話し、現役時代の映像を見ながら、これ以上ファール(反則)ができない状況の試合で、皆に励まされ思い切りプレーできたことに今でも感謝している。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り、工夫した点をオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「最後まで頑張る」「役割を決めた」「声掛けをした」「マーカーを取りに行く人を決めた」「決めたことを皆で実行した」等  
フレンドシップ：「ミスをかバーし合う」「動き易い順番でパスをした」「友達の良いところをお互い言い合った」「ミスをしたらごめんと言えた」等  
リスペクト：「相手を取りやすい様に丁寧にパスをする」「友達にボールを当てない」「ゴール下に相手チームがいたら順番を譲った」等



・運動と座学の時間を振り返り、スポーツは、決められたルールの中で楽しみながら取り組むことが大切だ。皆はそれを実践できていて素晴らしい。普段あまり喋らない友達もいたかと思うが、お互いが意見を出し合い、それを皆で話し合い、作戦を考えながら全力で取り組んでいた。またお互いを称えたことでチームワークが生まれたと思う。これからの学校生活に於いても、チームワークを大切に、友達同士しっかりと話し合いながら、より良いクラスにしてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 真太郎 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック/ソチ2014冬季大会】

■ **期 日** : 2022年11月17日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・ソチ2014冬季大会にボブスレー競技で出場したと自己紹介。大学時代は陸上競技の短距離種目を専門にしていた。体が大きかったこともあり、ボブスレーに転向。ボブスレーは、鉄製のそりを押しながらスタートし、その後ソリに乗り込み滑走するが、時速130km以上のスピードがでると説明。オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について説明し、準備体操に移る。その場でストレッチを実施後、4列横隊を作り、走る基本となるドリル練習を列毎に実施。

○主運動 等



・準備運動は、新聞紙を広げ体の正面に付けて走る。徐々に新聞紙を折り小さくしていく。小さくなるほど体から離れやすいので、体の軸を意識して走るように伝える。  
 ・主運動は、「ボールパス回し」を実施(全2回)。体育館外周のライン上に1列で並び中央を向き、右隣りの人にバスケットボールを手渡し、ボールが1周するタイムを競う。ボールを渡した人は、左回りに移動してボールを受け取り次の人に渡す。ボールを投げて渡した場合は、ペナルティとして、1回目は5秒追加、2回目はボールを2回投げた時点で失格とするルールを設定。



・運動の時間を振り返り、ボールをどうすれば効率よく回せるかを考えながら実施したが、1回目は思い通りにボールを回せず体力を消耗した。どんな競技でも効率的に動くことが理想だが、どうしても無駄な動作もたくさんある。基礎技術を1人1人が身に付け、チームで効率的な戦略を生み出すことは重要なことなので、部活動等でも生かしてほしい。座学の時間は、運動の時間で感じたオリンピックバリューの3つの価値を、自身のオリンピック出場時の経験を踏まえて話し、皆で考えていきたいと伝える。最後に整理体操を行い、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 真太郎 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック/ソチ2014冬季大会】

■ **期 日** : 2022年11月17日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年2組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」「協力」、リスペクト：「ルールを守る」と説明。ボブスレー競技の映像を見ながら競技説明。競技中だけではなく、その整備、試合会場への移動等もすべて4人で協力して行うので、仲間との連携がとても重要だ。近代オリンピックの創始者、ピエール・ド・クーベルタンについて紹介。また2030年に北海道札幌市でオリンピック・パラリンピック冬季大会の招致活動が行われていることに触れ、再び日本で開催されることを自身もとても楽しみにしていると話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：クラスを良くするために自分ができることをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「挨拶を積極的にする」「掃除を皆で協力して行う」「授業中寝ずにしっかり授業を受ける」「笑顔で過ごす」「ごみを捨てる」等  
フレンドシップ：「友達や誰かが困っていたら助ける」「協力し合う」「お互いの良いところを見つける」等

リスペクト：「ルールを守る」「友達を応援する」「駄目なことは注意し合う」「感謝を伝え合う」「皆のことを理解する」「視野を広げる」等



・座学の時間を振り返り、グループワークで皆が出してくれた意見は、誰かに言われたわけではなく、皆の素直な意見だと思う。思ったことを行動に移すことは勇氣がいることだが、毎日少しずつ行動に移し、困っている人がいれば声を掛ける等、皆が通いやすく、安心して勉強ができるクラス作りを目指してほしい。オリンピックに出場した選手もチームを大切に、関わる人々すべてに感謝しながら日々練習に取り組むことで良い環境でオリンピックを目指すことができる。皆もより良い環境で学校生活を過ごしてほしいと伝える。最後にオリンピックに出場した際に着用したシューズを披露し、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 真太郎 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック/ソチ2014冬季大会】

■ **期 日** : 2022年11月17日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年3組/運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・ソチ2014冬季大会にボブスレー競技で出場したと自己紹介。ボブスレーについて、鉄製のそりを押しながらスタートし、そりに乗りこみ滑走すると時速130km以上のスピードがでる。北海道札幌市が2030年にオリンピック・パラリンピック冬季大会の招致活動を行っているので、オリンピックについて学びながら、ぜひ日本で再び開催できるように応援してほしい。オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について説明し、運動の時間はオリンピックバリューを意識して取り組んでほしいと授業の目的を伝える。準備体操は、可動域を広げる運動を中心に実施。

○ 主運動 等



・準備運動は、走る動作のドリル運動を実施後、新聞紙を広げ体の正面に付けて走る。徐々に新聞紙を折り小さくしていく。小さくなるほど体から離れやすいので、体の軸を意識して走るように伝える。  
 ・主運動は、「ボールパス回し」を実施(全2回)。体育館外周のライン上に1列で並び中央を向き、右隣りの人にバスケットボールを手渡し、ボールが1周するタイムを競う。ボールを渡した人は、左回りに移動してボールを受け取り次の人に渡す。ボールを投げないようにルールを都度、伝える。



・運動の時間を振り返り、1回目は思い通りにボールを回せず、1周するのに時間がかかっていたが、作戦タイムで話し合ったことで、効率的な作戦を考え、1回目よりもタイムを縮めることができた。座学の時間は、運動の時間を振り返り、どのようなオリンピックバリューを感じることができたかを皆で考えてほしい。自身のオリンピック出場時の経験をオリンピックバリューに結び付けて話していきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 佐藤 真太郎 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック/ソチ2014冬季大会】

■ **期 日** : 2022年11月17日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年3組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、映像を見ながらボブスレー競技についての説明。運動の時間を振り返り、どんなことでも、効率的に戦略を考え意見を出し合うことは、皆の体育祭や普段の部活動でも活かせるので、ぜひ覚えておいてほしい。オリンピックに出場した選手も良い記録を出すには、どうすれば効率的にできるかを常に考え練習に取り組んでいる。危険と隣合わせの競技をする中で、安全を守るためにはルールを守ることがとても大切であり、オリンピックバリューの「リスペクト」につながる。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：クラスを良くするために自分ができることをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「お互いを高め合う」「威張らない」「困っている人がいたら声を掛ける」「相談をする」「協力する」「マイペースになり過ぎない」等  
フレンドシップ：「クラスの仲間と話をする」「人の話をしっかり聞く」「対等に接する」「お互い情報交換をする」「元気のない人に声を掛ける」等  
リスペクト：「マナーを守る」「譲り合う」「相手を知る」「相手の良い部分を褒める」「ゴミ拾いを積極的に行う」等



・座学の時間を振り返り、皆が出してくれた意見は皆自身が考え、出た意見なので、今後必ず生きる。どうすれば快適に過ごせるのか、皆が学校に来やすくなるのかを皆で話し合っ意見を出し合い、より良い環境で学べるクラスにしてほしい。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンを紹介し、オリンピックは、様々な競技が行われているので、機会があれば、色々な競技に興味を持ってほしいと伝える。最後にオリンピック出場時に着用したシューズや持ち物を披露し、授業終了。

- **オリンピック** : 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)  
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティ2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2022年11月18日(金)
- **ク ラ ス** : 2年4組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スケート/ショートトラックの日本代表として、長野1998、ソルトレークシティ2002、トリノ2006冬季大会に3大会連続で出場したと自己紹介。スケート競技は、スピードスケート、フィギュアスケート、そして自身が出場したシュートトラックに分かれる。ショートトラックは1周111.12mのリングを4、5人の選手が一斉に滑走する競技で、コーナーは、左手がリングに付くほど体を傾ける。皆の前で実際の体勢を見せながら説明。準備運動は、床に置いた雑巾の上に左手を置き、体を傾け足で円を描くように回る、シュートトラックの姿勢を皆で実践。その後ダイナミックストレッチを実施。

○主運動等



・主運動は、「ショートトラックリレー」を実施(全3回)。マーカーを均等に置き、シュートトラックを見立てたコースを作る。コースの外側を雑巾掛けをしながら回る。その際、マーカーに触れないように注意する。必ず1人1周以上回り、班で合計10周回る。10周を回り終わったら、カラーコーンを持ち上げ、ゴールの合図を送り、着順を競う。



・運動の時間を振り返り、班の皆で作戦を考えながら取り組んでもらったが、意見を出し合い、実践することで良い結果に繋がることを実感できたと思う。オリンピックバリューの3つの価値、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を、皆が自然と体感できていた。オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、身近な生活の中にある。座学の時間は、自身の経験がオリンピックバリューにどのように結びついているかを話すので、皆も運動の時間に感じたオリンピックバリューを思い出し、日常生活に置き替えて考えてほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)  
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティ2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2022年11月18日(金)
- **ク ラ ス** : 2年4組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像とスライドを見ながら競技紹介と自己紹介。実際に使用したスケート靴のブレード(刃)を披露。包丁のように鋭く、競技を行うリンクの状態や自身の体調に合わせて自分で調整する。競技用具を上手に扱うことも大切で、良い結果を出すためには、用具の調整技術も重要だと説明。過去、日本でオリンピックは4回開催されたと話し、近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンについて、オリンピックが教育の一環としてとても重要であり、平和につながるかと提唱したと説明。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間で工夫した点、良かった点をオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「1人1人がベストを尽くした」「走順を工夫した」「転んでも諦めなかった」「全力で取り組んだ」「一生懸命頑張った」等

フレンドシップ：「仲間を思いやりることができた」「雑巾の渡し方を工夫した」「班でしっかり話し合えた」「チームとして協力できた」等

リスペクト：「なぜ勝てたかをグループで考えた」「皆で回数を平等に回った」「雑巾の渡し方を工夫した」「ルールを守れた」「応援できた」等



・座学の時間を振り返り、自身は3歳から競技を始め引退するまでの間、オリンピックのメダル獲得を目指し、最後まで諦めずに試合に臨むことができた。皆もどんなことでも良いので、夢や目標を持ち、その目標の達成に向け、諦めずに頑張ってほしい。北海道札幌市で2030年にオリンピック・パラリンピック冬季大会の開催に向けて招致活動を行っている。日本でオリンピックが開催されるのは、この先何年度あるか分からないので、開催された際には今日のオリンピック教室を思い出しながら、楽しんで見てほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)  
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティ2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2022年11月18日(金)
- **ク ラ ス** : 2年5組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スケート/ショートトラックの日本代表として、長野1998、ソルトレークシティ2002、トリノ2006冬季大会に3大会連続で出場したと自己紹介。スケート競技は、スピードスケート、フィギュアスケート、そして自身が出場したショートトラックに分かれる。ショートトラックは1周111.12mのリンクを4、5人の選手が一齐に滑走する競技だと説明。コーナーを回る際は、左手がリンクを触るくらい体を傾けて滑る。1人1枚雑巾を持ち、その場で足で円を描くように回る動作を体験。その後ダイナミックストレッチを実施。

○主運動等



・主運動は、「ショートトラックリレー」を実施(全3回)。マーカーを均等に置き、ショートトラックを見立てたコースを作る。コースの外側を雑巾掛けをしながら回る。その際、マーカーに触れないように注意する。必ず1人1周以上回り、班で合計10周回る。10周を回り終わったら、カラーコーンを持ち上げ、ゴールの合図を送り、着順を競う。



・運動の時間を振り返り、皆が一生涯懸命全力で取り組み、作戦を出し合いながら良い順位を目指す姿が素晴らしかった。オリンピックバリューの、エクセレンス：「全力で取り組み諦めない」、フレンドシップ：「助け合いながら仲間を思いやる」、リスペクト：「ルールを守る」ことが皆自然とできていた。座学の時間は、自身がオリンピックに出場した過程や感じたこと等の経験を話し、皆もオリンピックバリューについて考えてほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)  
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティ2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2022年11月18日(金)
- **ク ラ ス** : 2年5組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



- ・自身が出場した競技映像を見ながら自己紹介。実際に使用していたスケート靴のブレード(刃)を見せ、包丁のように鋭く、競技を行うリンクの状態や体調に合わせて自分自身で調整する。滑るだけでなく、用具の手入れや調整も結果に大きく結びつくため、用具を大切にすることも重要なことだ。
- ・過去、日本で開催された4回のオリンピック大会を紹介。オリンピックシンボルは、5大陸が平等に手を取り合っている姿を表し、平和の象徴とされている。背景を入れた6色で世界中の国旗が描け、世界各国が団結する意味も込められていると説明。

○個人ワーク～グループワーク等



- 発問：運動の時間で工夫した点、良かった点をオリンピックバリューに当てはめてみよう。
- 発表：エクセレンス：「ベストを尽くした」「皆で作戦を工夫した」「順番を工夫した」「楽しめた」「受け渡し、姿勢、雑巾の持ち方等工夫した」等  
フレンドシップ：「皆で協力した」「お互いを考え順番を決めた」「仲間に聞こえるように大きな声で応援した」「お互いアドバイスをし合った」等  
リスペクト：「1人1人がしっかりルールを理解した」「全員が平等に参加できるように考えた」「譲り合いができた」「頑張った友達を称えた」等



- ・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは、皆が運動の時間で感じたように日常生活の中にあり、オリンピックに出場した選手だけのものではない。夢や目標を叶えるためには、壁にぶつかる時や、辛いことや苦しいこともたくさんあると思う。その時にオリンピックバリューを思い出してほしい。勇気を出して乗り越えてほしい。2030年に北海道札幌市でオリンピック・パラリンピック冬季大会の開催に向けて招致活動を行っている。日本で再びオリンピック・パラリンピックが開催された際には、今日のオリンピック教室を思い出しながら、楽しんでほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■集合写真

・2年3組



・2年4組



## ■集合写真

・2年5組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



・2年4組



・2年5組



■ 修了証贈呈

